

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視察先（要望）先	千葉県松戸市
視察先（要望）日時	平成29年5月15日（月）13時30分～15時00分まで
視察先（要望）項目	教育課程特例校 言語活用科について
視察先（要望）者	長南誠委員長・石澤祐一副委員長・結城正・中里芳之 海老名幸司・茨木久彌・大山正弘（7名）
内 容	<p>あいさつ</p> <p>松戸市議会事務局 議事調査課長 大谷 昇 説明者</p> <p>学校教育部指導課 課長補佐 菊地 聖子 指導主事 南 進史 指導主事 坂口 毅</p> <p>松戸市は、千葉県の北西部に位置し、東京都内への通勤者の多い住宅都市で都心への通勤時間が40分程度と地理的条件も良く、昭和36年以降人口が増加し現在49万人の市になっています。</p> <p>松戸市学校教育指導方針は、基本目標に「生きる力」とし、「確かな学力」「思いやりのある豊かな心」「健やかな体」基本方針とし特色ある学校づくりをめざしていました。</p> <p>松戸市「言語活用科は」教育課程特例校の指定を受け、英語分野については独自の教材をつくり、日本語・英語教育を充実させ思考力・判断力・表現力の育成を図っていくことを目標にしているとのことでした。</p> <p>めざす児童生徒の将来像としては、理論的・批判的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、グローバル化する社会で活躍できる児童生徒をめざし、日本語分野の目標としては、「考えたり表現する方法を工夫し、自分のいけんをわかりやすく伝える力を身につける。」「相手が伝えようとしていることを理解する力を身につける」ことを目標にし、英語分野の目標としては、「英語を学ぶ楽しさを知り、英語学習の基礎的な力を身につける」ことを小学校で</p>

	<p>の目標として、「英語を使って自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける」ことを中学校卒業までの目標にして、言語活動充実させていきたいとのことでした。</p>
--	--

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視察先（要望）先	神奈川県横須賀市
視察先（要望）日時	平成29年5月16日（火）9時30分～10時15分まで
視察先（要望）項目	英語教育について
視察先（要望）者	長南誠委員長・石澤祐一副委員長・結城正・中里芳之 海老名幸司・茨木久彌・大山正弘（7名）
内 容	<p>あいさつ</p> <p>横須賀市議会事務局 総務課長 山口 里美 説明者</p> <p>学校教育部指導課 課 長 佐藤 昌俊 総務係長 高橋 大</p> <p>横須賀市は、小学校、中学校、高校の12年間を通しネイティブスピーカーに触れる機会を増やし、横須賀の将来を担う子供たちの国際コミュニケーション能力を育成するために、平成20年度から国際コミュニケーション能力事業として、ALT（外国語指導助手）の配置による外国語指導を行っているそうです。</p> <p>市立の全学校にALTを配置（小学校は、学校規模に応じて配置・中学校は、基本的に1校1名）し、小学校については、1～4年生は年間10時間、5～6年生は年間35時間の授業時数を設定して指導を行っている。</p> <p>ALTは、その他さまざまな教育活動にも参加してもらい子供と一緒に過ごす時間を作っているとのことでした。</p> <p>ALTは、教育委員会から業務委託を受けた受託会社からの指示・命令による職務を遂行しており、授業における外国語活動などの指導に当たっているとのことでした。</p> <p>また、横須賀市では、平成16年度より「横須賀市国際教育特区構想」としてFLT（外国人英語教師）5名を市の正職員として市独自で採用し、外国語教育及び国際理解教育の推進を図っていました。</p>

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視察先（要望）先	神奈川県横須賀市 諏訪小学校
視察先（要望）日時	平成29年5月16日（火）10時25分～11時20分まで
視察先（要望）項目	英語教育について（授業見学）
視察先（要望）者	長南誠委員長・石澤祐一副委員長・結城正・中里芳之 海老名幸司・茨木久彌・大山正弘（7名）
内 容	<p>あいさつ・説明者 神奈川県横須賀市 諏訪小学校 校 長 阿部 優子</p> <p>神奈川県横須賀市 諏訪小学校は、横須賀市役所隣にある小学校で在籍児童数349名・教職員数50名（含む非常勤）の学校で各学年2クラスの中規模の小学校でありました。</p> <p>特徴的なことは、子供の両親の一方が外国人である児童が児童数の三分の一を超えているとのことでした。</p> <p>学校教育目標として 夢を大切に「心豊かにみずから学ぶ子」を掲げ、重点課題としては、（学びづくり）（信頼づくり）（組織づくり）（安全づくり）をあげ、子どもの指導を行っていました。</p> <p>実際の授業は、3校時で10時35分から11時20分までで5年生の外国語の授業で、先生とALTの方との2名での授業でした。内容は、英語で相手を意識し印象に残る自己紹介の練習をすることでした。</p> <p>実際に英語でALTと話をしたり、書いたり上手に行っていました。</p> <p>1年生から、外国語活動として月1回の授業があり、5、6年生は外国語科として週2回の授業を行っているそうです。</p>

調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視察先（要望）先	第8消防方面本部救助機動部隊・航空隊・防災資料館
視察先（要望）日時	平成29年5月17日（水）9時00分～12時00分まで
視察先（要望）項目	ハイパーレスキュー隊・航空隊・防災資料館等見学
視察先（要望）者	長南誠委員長・石澤祐一副委員長・結城正・中里芳之 海老名幸司・茨木久彌・大山正弘（7名）
内 容	<p>消防救助機動隊（愛称はハイパーレスキュー）は、1995年に発生した阪神・淡路大震災の教訓から、通常の消防力では対応が困難な救助事象に迅速に対処するための部隊の必要性から創設されました。</p> <p>第8消防方面本部救助機動部隊は、東京都立川市にあり東京の多摩地区東部を管轄し、機動救助隊・機動特科隊・機動救急隊があり、63名の隊員で組織されているとのことでした。</p> <p>緊急消防援助隊等災害出動としては、国内・海外の派遣も数多くあり、大変重要組織であると感じてきました。</p> <p>東京消防庁航空隊多摩航空センターは、第8消防方面本部救助機動部隊の隣にあり、ヘリコプターの大型機・中型機を有し、消火活動・情報収集・救急・救助などの任務についています。年間の災害出場件数は、462件とのことでした。</p> <p>両施設とも、初めて見る大型の車両・ヘリコプターなどで大都市東京を守るためには必要であると感じてきました。</p> <p>東京消防庁立川都民防災教育センターは、楽しみながら防災体験ができる施設で、防災ミニシアター・地震体験室・煙体験室・応急救護訓練室・消火訓練室の5施設があり、災害時に役立つ行動力を身につける体験学習施設でした。</p>